

はじめに

大正大学 地域構想研究所 副所長 柏木 正博

令和元年度版「地域構想」を発行するにあたり、大正大学地域構想研究所の報告を兼ねて、現状を述べたい。

地域構想研究所は、平成 26 年 10 月に設立された。昨年（令和元年）11 月 6 日には、設立 5 周年記念公開シンポジウム「ソサエティ 5.0 時代 東京の大学が関わる地域再生への道」を開催。同年に就任した当研究所の鎌田薫最高顧問による基調講演をはじめ、盛会裡の内に開催できたことは、これからの研究所にとって大変意義深いことであった。

地域構想研究所の設立の趣旨は、大正大学建学の理念である「智慧と慈悲の実践」と重なるものである。地域の活性化にあたっては、地域の資源を見直し、地域独自の特色や価値を見出しながら、多くの人々や組織と協働し、活力ある社会を構想することが大切である。そうした人々の共通理念や共通規範、また大正大学が地域創生に関わる意義を、建学の精神の中に見出したいと考える。本研究紀要に掲載している研究員の研究分野は多岐にわたるが、その意味で一貫して、地域に根差した地域再生や幸せな地域生活に資するものであってほしいと念じている。

一方、本年（令和 2 年）2 月に、第 2 期「地方版総合戦略」策定の状況等に関するアンケート調査を実施した。全国 1741 自治体を対象とし、710 件の回答をいただいた（回収率 40.8%）。この調査は、平成 28 年 2 月に実施した自治体対象アンケートをベースに、本年度から始まる第 2 期「地方版総合戦略」の策定状況とその内容、及びこうした戦略立案に関わる人材の育成についての取り組みや課題意識について伺ったものである。新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の影響により、当初の予定より遅滞を余儀なくされたが、7 月 1 日よりホームページ上で結果を公表させていただくことができた。

この感染症の影響も東京一極集中の感があるが、現実には地方にも深刻な問題を引き起こし、今後解決すべき課題が山積するものと考えている。いずれにしても、そのとき本研究紀要が、地域創生の一端を担う価値ある情報源となっていることを望みたい。